

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄県における職業高校生のスポーツ活動に関する調査

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-08-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外間, 政太郎, 浜元, 盛正, Hokama, Seitaro, Hamamoto, Morimasa, 濱元, 盛正 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/1360">http://hdl.handle.net/20.500.12000/1360</a>

# 沖縄県における職業高校生の スポーツ活動に関する調査

外間 政太郎・浜元 盛正

A Survey of Sports Activities of Vocational Senior High School  
Students in Okinawa Prefecture

Seitaro HOKAMA,\* Morimasa HAMAMOTO\*\*  
(Received August 20,1983)

## Abstract

This study was attempted primarily to investigate the actual state of sports activities of vocational senior high school students of Okinawa, aiming secondly to estimate their interest in the 42nd National Sports Festival scheduled to be held in 1987 in Okinawa.

The results obtained were as follows;

- 1 More than 90% of subjects were in good health.
- 2 The total rate of students' participation in sports club was lower than that of common school, and moreover, girls showed lower rate than boys.
- 3 The variety of sports activities was more than that of common school.  
Boys had more variety than girls.
- 4 Boys did not have much time for study, but much free time.  
Girls had less time of practice than boys.
- 5 Boys showed keen interest in the 42nd National Sports Festival, while girls totally proved to be passive concerning this event.
- 6 Present state of sports clubs
  - 1) Those who had belonged to sports clubs in junior high school had a tendency to continue their sports activities.
  - 2) The average length and frequency of practice was 2 or 3 hours per day and 6 or 7 days per week.
  - 3) Students requested the Okinawa Senior High School Sports Federation to increase frequency of sports meeting and a institute of technique.  
About 25% of students supported the present policy of the federation.

---

\* Phys. Educ., coll. of Educ., Univ. of the Ryukyus.

\*\* Phys. Educ., coll. of Liberal Arts, Univ. of the Ryukyus.

結 言

武笠は、<sup>11)</sup>「最近、大学などでは体育会系の運動部に入るものが減少し同好会クラブが増えてきている。また、高等学校や中学校では部活動が停滞しているといわれている。何をもちて停滞というのか、データもないし判断の規準もあいまいであるが、部活動に変化がみられるようになったとってよかろう。」と述べている。川村等も<sup>4)</sup>「最近、中・高等学校、大学を通して、運動部への入部希望者が少なく、部員集めに苦労している所が多い。」と高校生のスポーツ活動の様がわりを指摘している。また、北村は、<sup>5)</sup>「現在の高校運動部は低迷時代にあり、古い運動部（試合・選手中心主義）から新しい運動部観への脱皮期におかれているといういみで衰退というよりもむしろ、転換期にみられる特殊な現象としてとらえるべきであろう。」と言及している。

川村らは、<sup>4)</sup>さらに「今日、一流校を志望する中・高校生で運動部で活躍している者を見つけることは極めて少ない。このことは、本来課外活動として教育の両輪である筈の運動部の組織やあり方が受験ということをかかえた今日の本課と両立しないことを明確に示しているといえよう。」とも指摘している。新聞<sup>11)</sup>でも生徒・教師ともに両立に大きなジレンマを感じていると報道している。

以上のことは、高校生のスポーツ活動が受験等によって変容しつつあることを示唆している。

昭和62年に予定されている第42回国民体育大会の成年種別の中心となるであろう高校生<sup>12)</sup>のスポーツ活動について調査しておくことは、極めて有意義なことと思われる。

県民のスポーツ意識について、復帰記念沖縄特別国民体育大会が実施されたとき、外間ら<sup>1)</sup>は調査をしている。筆者らは、先に「沖縄県高校生のスポーツ調査」<sup>2)</sup>で第42回沖縄国体への関心度について触れている。

本研究は、全日制職業科に在籍する高校生のスポーツ活動の現状を把握するとともに、第42回沖縄国体への関心度を知ることを目的として

いる。

調 査 方 法

本研究は、北部・中部・那覇・南部・宮古・八重山地区の職業高校の中から、男女とも六校を選出し、沖縄県教育庁企画室の資料<sup>13)</sup>を参考にして、各学年・男女とも80~100名を目途に質問紙を昭和55年12月に配布し、昭和56年1月に回収した。その結果は表1に示すとおりであった。

表1 調査対象と回収率

対象と回収率	性別 学年	男 子				女 子			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
対 象	北部農林高	100	100	100	300	59	73	73	205
	中部農林高	100	100	100	300	77	72	70	219
	南部農林高	100	100	100	300	82	72	78	232
	宮古農林高	100	100	100	300	100	100	100	300
	八重山農林高	100	100	100	300	94	100	86	280
	沖繩工業高	100	100	100	300	-	-	-	-
校	那覇商業高	-	-	-	-	100	100	100	300
	配布人員	600	600	600	1,800	512	517	507	1,530
回 収 数	595	530	529	1,654	462	448	435	1,345	
回 収 率	(99.2)	(88.3)	(88.2)	(91.9)	(90.2)	(86.7)	(85.8)	(87.6)	

女子の対象人員 注4)

結 果

全日制職業科の生徒を対象とした調査資料を男女とも学年別に集計し整理した。

1. 職業高校生の一般的現状

1) 健康状態

表2 健康状態について

単位：%

選択項目	性別 学年	男 子				女 子			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
健康である		537	484	477	1,478	411	397	387	1,195
		(90.3)	(91.3)	(90.2)	(90.6)	(89.0)	(88.6)	(89.0)	(88.8)
病気がち		24	24	22	70	25	21	21	67
		(4.0)	(4.5)	(4.2)	(4.2)	(5.4)	(4.7)	(4.8)	(5.0)
通 院 中		7	6	12	25	15	12	11	38
		(1.2)	(1.1)	(2.3)	(1.5)	(3.2)	(2.7)	(2.5)	(2.8)
無 記 入		27	16	18	61	11	18	16	45
		(4.5)	(3.0)	(3.4)	(3.7)	(2.4)	(4.0)	(3.7)	(3.3)

健康状態については表2に示した。

男子は、約90%の者が「健康である」と回答し、「病気がち」「通院中」あわせて約7%であった。

女子は「健康である」が約89%、「病気がち」「通院中」が約8%いる。

概して「健康である」と自覚している。

## 2) 部活動の状況

表3 部活動の状況

単位：人(%)

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
運動系	172 (28.9)	123 (23.2)	127 (24.0)	422 (25.5)	89 (19.3)	65 (14.5)	64 (14.7)	218 (16.2)
文化系	10 (1.7)	14 (2.6)	32 (6.0)	56 (3.4)	52 (11.3)	48 (10.7)	85 (19.5)	185 (13.8)
中途退部	92 (15.5)	83 (15.7)	102 (19.3)	277 (16.7)	74 (16.0)	81 (18.1)	86 (20.2)	243 (18.1)
無加入	321 (53.9)	310 (58.9)	268 (50.7)	899 (54.4)	247 (53.5)	254 (56.7)	198 (45.5)	699 (52.0)

部への入部状況を表3に示してある。

男子は、運動部約26%、文化部3%、計29%が入部しており、残る約70%が「中途退部者」か「無加入」である。

女子は、運動系約16%、文化系約14%、計30%入部者で、残る約70%が中途退部、無加入者である。

進級するにつれて、部活動者が減る傾向にある。また、文化系活動者は、女子が男子の約3.5倍もいる。

表4 運動部に入らない理由

(二項選択) 単位：人

性別 項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
運動嫌い	48	46	31	125	40	62	32	134
文化部へ加入している	13	12	31	56	55	40	65	160
能力がない	51	48	43	142	72	98	100	270
きつい練習へついていけない	98	84	65	247	92	99	81	272
束縛がいや	42	61	64	167	40	55	39	134
練習時間がかかりすぎる	84	70	73	227	34	30	29	93
学習に支障きたすから	21	29	22	72	17	5	2	24
経済的費用がかかりすぎる	28	35	22	85	24	16	18	58
身体的理由	19	26	19	64	24	25	18	67
家族が反対する	11	12	11	34	42	32	29	103
通学時間がかかりすぎる	68	61	61	190	61	59	51	171
その他	48	66	62	176	38	40	38	116
無記入	56	32	44	132	16	26	34	76
注) 運動部員でない人数	423	407	402	1,232	373	383	371	1,127

運動部に入らない理由として、男子は「練習がきついし、時間もかかり、通学時間もかかるので」が上位を占め、女子は「能力がない上に、練習がきついし通学にも時間がかかる」のでが上位となっている。

## 3) 一日の運動・勉強・自由時間

表5 一日の運動・勉強・自由時間

単位：分

性別 学年	男 子				女 子				
	1年	2年	3年	平均	1年	2年	3年	平均	
運動時間	校内	55	47	37	46	42	36	28	35
	校外	14	13	21	16	7	9	12	9
計	69	60	58	62	49	45	40	44	
勉強時間	39	42	39	40	52	43	38	44	
自由時間	149	157	171	159	125	143	135	134	

男子は、運動時間(62分)、自由時間(159分)とも女子より多いが、勉強時間は40分程度女子より少ない。

男女とも、校内での運動時間が校外の約3倍となっている。

## 4) 校内・外での運動実施状況

表6 学校内で部活動以外でやる運動種目

(二種目記入) 単位：人

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
バレーボール	7	3	10	20	4	2	4	10
バスケットボール	17	4	31	52	5	1	6	12
ソフトボール		1	13	14				1
バドミントン		1	12	13	5	2	7	14
テニス		3	4	7	1		1	2
野球	5	6	24	35				
サッカー	10	1		11				
ラグビー	1		9	10				
陸上競技	10	20	5	35	3	1		4
柔道	7			7				
空手			1	1				
卓球	14		3	17	2	1	1	4
レスリング	2	2	1	5				
ジョギング	1	1	1	3	1	2	1	4
トレーニング	3	1	1	5	6			6
体操		1	2	3				3
縄とび					1	1		2
ハンドボール	1	5	3	9	3	1		4
ヨガ	1			1	2			2
キャッチボール			1	1		1		1
ボクシング	1	1		2				

表6~10を参考に結果をまとめてみると、校外のほうが校内より実施種目が多い。

男子は校外28種目に対し校内22、女子は校

外20種目に対し校内14であった。

種目の内容は、校内・外ともバレーボール、バスケットボール、陸上競技、野球、バドミントンが主としてあげられている。

「どんな理由で運動するのか」との問に対し、男女とも「楽しみ」ながら「運動不足」気味だから「からだを鍛えたい。」と答えている。

「運動をやらなかった」理由として、校内では、男子が「やりたいが用・器具、仲間、場所もない」という雰囲気に対し、女子は「運動嫌いで、仲間も場所もない」となっている。

校外では、男子「好きなことに時間をかけたし、部活動もした。でもやるとなると場所がない」に対し、女子は「好きなことに時間をかけたし、家事の手伝いもあって、場所もないし、運動嫌いだから」となっている。

表7 最近一週間で校外において実施した運動種目 (二種目記入) 単位:人

実施種目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
バレーボール	14	20	14	48	10	19	13	42
バスケットボール	27	35	31	93	5	6	4	15
ソフトボール	4	6	8	18	7	5	1	13
バドミントン	2	3	4	9	6	9	20	35
テニス	8	7	10	25	5	5	7	17
野 球	46	54	79	179	2	2		4
サッカー	9	9	6	24				
ラグビー	7		3	10				
陸上競技	37	36	42	115	11	8	7	26
空 手	2	3	2	7				
柔 道	2		3	5				
ボクシング	1	4		5				
ヨ ガ							3	3
ウインドサーフィン	2			2				
ヌンチャク			1	1			1	1
卓 球	10	10	14	34	2	5	17	24
縄 と び	4	2	4	10	10	8	5	23
水 泳		1	1	2				
ジョギング	8	8	9	25	6	6	6	18
トレーニング	12	8	10	30	4	1	3	8
ス ケ ー ト			4	4	1	3	2	6
自 転 車	1	1		2	1			1
ボーリング	3	3	8	14	5	3	9	17
ゴ ル フ	1	4	4	9		1		1
ハンドボール	2	12		14	1			1
体 操	1	3	9	13	7	10	11	28
レスリング	1	1	3	5				
キャッチボール			5	5		5	3	8
フットボール		1		1				

表8 どんな理由で運動するか 単位:人

選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
身体を丈夫にする	105	114	83	302	67	42	51	160
楽しみ・気晴らし	217	189	228	634	172	168	199	539
運動不足を感じる	66	57	73	196	78	84	63	225
精神の修養・訓練	48	43	40	131	17	25	17	59
仲間づくり	21	18	12	51	15	8	15	38
勝利の感激	42	26	29	97	8	9	4	21
わからない	40	30	30	100	53	55	20	128
その他	6	13	4	23	6	1	5	12
無記入	50	40	30	120	46	56	61	163

表9 校内で運動をやらなかった理由(二項選択) 単位:人

選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
運動する場所がない	74	70	58	202	58	44	44	146
用具・器具がない	83	79	69	231	43	31	46	120
運動が嫌い	72	67	46	185	76	97	73	246
勉強時間が欲しいため	42	31	17	90	22	7	11	40
文化部へ入部しているため	9	13	21	43	36	29	46	111
仲間がいない	80	67	70	217	65	63	54	182
病 気 等 身体的障害	6	12	6	24	9	6	2	17
その他	109	125	115	349	102	133	111	346
無記入	139	118	111	368	119	103	108	330

表10 学校外で運動をやらなかった理由(二項選択) 単位:人

選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
部活動で充分	65	45	22	132	41	32	11	84
運動が嫌い	32	32	13	77	31	56	22	109
場所がない	66	42	39	147	52	35	49	136
仲間がいない	55	38	32	125	29	33	26	88
用・器具がない	34	31	28	93	33	23	23	79
病 気 等 身体的障害	3	5	6	14	7	3	1	11
テレビを見たため	49	39	28	116	37	20	16	73
勉強時間がなくなるから	18	16	16	50	11	5	7	23
塾・おけいこごと	5	2	0	7	4	2	3	9
好きな事に時間をかけた	176	171	158	505	157	195	181	533
家事の手伝い	39	51	38	128	106	87	100	293
その他	20	20	24	64	14	24	21	59
無記入	61	32	37	130	36	39	46	121

5) 昭和62年沖縄国体

表11 第42回沖縄国体(昭和62年)について 単位:人(%)

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
開 催 賛 成	350 (58.8)	352 (66.4)	371 (70.1)	1,073 (64.9)	213 (46.1)	185 (41.3)	204 (46.9)	602 (44.8)
どちらでもよい	194 (32.6)	152 (28.7)	134 (25.3)	480 (29.0)	226 (48.9)	230 (51.3)	197 (45.3)	653 (48.6)
開 催 反 対	14 (2.4)	5 (0.9)	9 (1.7)	28 (1.7)	1 (0.2)	6 (1.3)	5 (1.1)	12 (0.9)
無 記 入	37 (6.2)	21 (4.0)	15 (2.8)	73 (4.4)	22 (4.8)	27 (6.0)	29 (6.7)	78 (5.8)

表11は、昭和62年に行なわれる第42回沖縄国体に対する賛否を示してある。

男子は、賛成約65%、反対約2%、女子は賛成約45%、反対約1%となっている。

男子が積極的であるのに対し、女子は「どちらでもよい」と消極的賛成者が男子の2倍となっている。

2. 職業高校の運動部の現状

運動部の状況については表12~18に結果を示した。

1) 入部の動機

表12 運動部への入部の動機 (二項選択) 単位:人

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
中学校からやっている	65	43	49	157	31	13	15	59
友人の勧誘	30	24	22	76	22	18	20	60
上級生の勧誘	11	13	15	39	1	4	8	13
先生の勧誘	7	5	8	20	4	1	3	8
家族の勧め	5	2	0	7	2	4	0	6
自分の意志	110	78	66	254	52	47	37	136
その他	5	2	7	14	4	4	1	9
無 記 入	3	4	7	14	4	7	11	22
注)運動部員の数	172	123	127	422	89	65	64	218

表13 入部の目的 (二項選択) 単位:人

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
身体の鍛練	68	47	52	167	20	15	23	58
好き	102	71	65	238	61	38	37	136
友人を得る	11	11	7	29	16	11	7	34
技術の習得	51	33	32	116	26	23	19	68
勝利と名誉	4	3	10	17	1	1	0	2
何となく	17	9	9	35	11	9	5	25
その他	18	9	11	38	2	0	3	5
無 記 入	2	4	3	9	5	6	11	22

男子は、「中学校からやっている」「自分の意志で決めた」「友人の勧めもあった」がベスト3となっている。

女子も概して男子と同じだが、「中学校からやっている」と「友人の勧め」が同数に近い。

2) 入部の目的

男女とも圧倒的に「好きだから入部した」となっている。次いで、男子は「身体の鍛練」、女子「技術の習得」をあげ、三番目には、男子「技術の習得」女子「身体の鍛練」となっている。

まとめてみると、男女とも「好きだから身体を鍛えつつ、技術の向上を目差したい。」ということになる。

3) 活動状況

表14-1 一週の活動日数(年間平均) 単位:人

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
1 日	6	1	6	7	1	2	0	3
2 日	1	1	2	4	2	0	2	4
3 日	9	7	2	18	8	3	2	13
4 日	6	4	5	15	2	5	2	9
5 日	39	26	22	87	14	4	5	23
6 日	62	49	56	167	26	20	22	68
7 日	45	31	30	106	31	27	21	79
無 記 入	6	5	12	23	8	9	14	31

表14-2 1日平均の活動時間 単位:人

性別 学年	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
30 分	3	2	1	6	1	2	0	3
1 時間	3	1	2	6	4	0	0	4
1.5 時間	11	10	6	27	8	6	3	17
2 時間	52	36	38	126	22	17	16	55
2.5 時間	30	23	23	76	14	12	12	38
3 時間	42	35	22	99	18	17	16	51
3.5時間以上	22	12	22	56	14	9	5	28
無 記 入	11	5	16	32	11	7	16	34

表14-1でみると、男子は「週6日」が約40%、次いで「毎日」が約25%、週5日は約21%である。女子は「毎日」が約36%、「週6日」約31%、「週5日」約11%となっている。

表14-2は1日の練習時間を示してあるが、一番多いのが、「1日2時間」で、男子約30%、女子約25%であった。男子は約71%、

女子が約60%が「2時間～3時間」練習していることになる。

4) 部費の自己負担額

表15 部費の自己負担額

単位：人

性別 学年 選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
5千円位	29	12	18	59	16	9	4	29
1万円位	28	18	14	60	15	8	6	29
1.5万円位	24	11	7	42	2	4	7	13
2万円位	16	15	15	46	14	13	11	38
2～3万円位	12	20	11	43	12	8	5	25
3～4万円	13	15	17	45	5	4	4	13
4～5万円	16	13	12	41	5	2	5	12
5万円以上	15	13	15	43	2	2	6	10
無記入	21	10	20	51	21	20	20	61

部費の負担状況は表15に示してある。

男子「5千円」「1万円」が殆ど同率であり、「5万円以上」までの各範囲とも平均して10%台である。

女子は「2万」がトップで約17%、「5千円」「1万円」が各13%であった。

5) 部活動で一番希望すること

表16 部活動で一番希望すること

単位：人

性別 学年 選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
活動する場所が欲しい	8	7	10	25	12	6	11	29
専門的指導者が欲しい	60	52	56	168	32	26	20	78
予算が欲しい	66	43	32	141	15	7	8	30
家族の理解協力が欲しい	8	3	7	18	14	16	7	37
その他	10	6	8	24	5	6	3	14
無記入	22	12	16	50	14	9	19	42

男子は「専門的指導者」(40%)「予算」(33%)が欲しいとなっている。

女子は、「専門的指導者」(約36%)「家族の理解」(約17%)が欲しいとなっている。

6) 高体連主催行事以外への出場回数

表17 高体連主催以外の大会への年間出場回数 単位：人

性別 学年 選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
出場しない	51	26	19	96	33	17	17	67
1～2回	65	40	36	141	34	16	16	66
3～4回	35	32	33	100	6	12	9	27
5～6回	7	10	18	35	1	10	3	14
7～8回	3	2	2	7	2	0	2	4
9回以上	2	5	4	11	1	1	3	5
無記入	11	9	17	37	15	14	18	47

男子は「1～2回」約33%、「3～4回」が約24%、次いで「出場しない」約23%となっている。

女子は「出場しない」約31%、ほぼ同率で「1～2回」があげられている。

7) 高体連への希望

表18 高体連に対し今一番希望すること

単位：人

性別 学年 選択項目	男 子				女 子			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
技術講習会を増やして欲しい	20	10	26	56	13	8	4	25
競技種目を増やしてほしい	15	5	7	27	3	7	0	10
大会回数を増やしてほしい	74	58	52	184	16	13	19	48
現状で良い	47	37	24	108	42	33	24	99
その他	4	2	1	7	3	1	1	5
無記入	15	12	19	46	15	9	20	44

男子は「大会数の増」約44%、「現状でよい」が約26%となっている。

女子は「現状でよい」が他を圧倒し約45%もあり、続いて「大会数の増」が約22%もいた。

考 察

本研究は、全日制職業科に在籍する高校生のスポーツ活動の現状を把握するとともに、第42回沖縄国体への関心度について知ることを目的としており、先般報告した<sup>2)</sup>全日制普通科の高校生のスポーツ活動と比較しながら考察を進めた。

## 1. 職業高校生の一般的現状

### 1) 健康状態

両科・男女とも「健康である」が約90%であることがわかった。ただし、職業科女子で「病気がち」の者が他より少し多い。その理由について、本研究では究明できないので、今後の課題としたい。

### 2) 部活動の状況

部活動者の中で運動部に籍を置く生徒の割合は、職業科男子約26%に対し普通科男子39%であり、職業科女子16%に対し普通科女子21%であった。

職業科は運動部員の割合が少ない傾向にあり、その一因として「通学時間がかかる。」が考えられる。

女子は男子に較べて低滞気味であるが、沖縄県高等学校教職員組合の白書<sup>10)</sup>でも女子は低滞気味であった。

また学年が進むにつれて、部活動者が減少することについて北村は<sup>9)</sup>「学校の種別のいかにかわらず、また、いつの時代にもみられる傾向である。」と述べている。

文部省の資料<sup>9)</sup>の29.4%、糸野の資料<sup>7)</sup>約20~30%とは近似の数値が出たが、山地<sup>14)</sup>の研究による富山県の50~60%に較べて本県は入部者の割合は少ない。この背景についても今後究明する必要がある。

運動部に入らない理由として、両科・男女とも「練習がきつい」をあげており、北村が<sup>9)</sup>指摘する注目すべき理由であり、「従来あまり見られない傾向」への変容を示唆している。

両科の差としては、職業科が「通学時間」をあげれば、普通科は「学習支障」をあげているのが特徴的である。

性差をみると、男子は「束縛がいや」「練習時間がかかりすぎる」をあげ、女子は、「能力がない」「文化部に加入」をあげている。

### 3) 運動・勉強・自由時間

この項目は、両科別、男女別のそれぞれの特徴がみられる。

職業科男子は、自由時間を一番多く持つが勉強をあまりしない。

普通科男子は、運動・勉強を一生懸命やる

ため自由時間が少ない。このことは、糸野が<sup>7)</sup>指摘する「勉強時間の多いこと、即スポーツ活動を抑圧することにはならない」と同じ傾向を示している。

職業科女子は、自由時間は2番目に多く、運動時間は一番少ない。

普通科女子は、運動・勉強・自由時間もまあまあというタイプ。

### 4) 校内・外での運動実施状況

校内・外での運動実施種目は、両科とも男子が女子より多い。校外でが校内よりも両科・男女いづれの場合も実施種目は多い。

職業科が普通科よりも多様であった。これは、糸野の資料<sup>7)</sup>と一致している。

職業科「陸上」普通科「ジョギング」をあげているところに両科の差異が感じられる。

運動する理由として、男女で選択項目の順位の入替りはあるが「楽しみ・気晴らし」「運動不足」「身体を丈夫に」が上位にあり「気晴らしと運動不足を補い身体を丈夫にしたい」との願望が表されている。この傾向は社会人になっても維持・継続されるものと推測される。<sup>2)</sup>

運動をやらない理由は、校内では女子が「運動嫌い」、普通科男子が「勉強したい」をあげているが、全体的に共通していることは、「場所・用具・仲間がない」となっている。

校外の場合、男子は「好きなことをしたいし、部活動で充分だし、場所もないから」に対し、女子は「好きなことをしたいし、家の手伝いもあって、場所もないから」となっている。

運動をしない理由は「運動する理由」とはちがって、年令・環境の影響により差異が現れるものと思われる<sup>12)</sup>

### 5) 昭和62年沖縄国体

男子と普通科女子は「賛成」が多数を占めているが、職業科女子は、「どちらでもよい」が多数を占めている。

性別では、男子が積極的であるのに対し、女子は消極的な賛成を表明している。

## 2. 運動部の状況

### 1) 入部の動機



両科とも、男女とも同傾向にあり、「友人の勧めもあったが、中学校からやっていたし、自分の意志で決めた」としている。

松浦は<sup>8)</sup>、「運動部経験を中学から始めたものは高校に進んでも運動部経験をつづけようとする傾向が強いと推測され、…」と報告しており、本研究でも確認することができた。

### 2) 入部の目的

両科・男女とも同じ傾向にあり「好きだから、身体を鍛練しつつ、技術の向上を図る。」を目的としている。その中でも男子は「鍛練」を女子は「技術」を志向している。

### 3) 活動の状況

両科・男女とも半数以上の者が、週6～7日、1日2～3時間汗を流している。こういう方向性については、竹之下も<sup>13)</sup>報告している。

毎日活動はしているが「勝利を追う」のではなく、「楽しみ・気晴らし」を重視する生徒の運動部観の質的変化<sup>9)</sup>をうかがい知ることができる。

### 4) 部費の自己負担額

男子は、5千～5万以上まで分散、平均しておるのに対し、女子は、できることなら3万円以下に抑えて活動したいとの雰囲気がある。

### 5) 部活動で一番希望すること

両科・男女とも「専門的指導者」と「活動費」が欲しいと希望している。職業科女子が「家族の理解」を求めていることは、「通学時間」「家事手伝い」の為運動ができないとの関連でうなづける要望である。

### 6) 高体連主催行事以外の大会への出場

両科・男女とも同じ傾向を示している。男子が高体連主催外大会への出場回数1～4回は約57%、女子が約43%である。「高体連の大会のみ」が男子約23%、女子31%である。

### 7) 高体連への希望

高体連に対し、両科・男女とも「大会数の増」「技術講習会増」を希望している。

しかし、「現状でよい」とするものが、職業科男子約26%、普通科男子約27%、職業科女子約45%、普通科女子約39%もいる。

少くとも四人に一人は高体連の現在の方針で

充分であると支持していることがわかった。

## 要 約

本研究の目的は、全日制職業高校生のスポーツ活動の現状を全日普通科の生徒と比較しながら把握し、第42回沖縄国体への関心度を知ることであった。

主な結果を要約すると次のとおりである。

1. 約90%の者が健康な状態であった。
2. 運動部員の割合は普通高校より少く、更に女子は男子より低い。
3. 男子は、勉強時間が少なく、自由時間は多い。女子は、運動時間が少ない。
4. 運動実施状況は職業科の方が多様化している。また男子が女子より多様である。
5. 第42回沖縄国体への関心度は、男子が積極的であるが、女子は消極的である。

### 6. 運動部の現状

- 1) 中学校での運動部経験者が現在も継続している。
- 2) 入部の目的は「好きだから」「身体を鍛練するため」「技術の習得のため」となっている。
- 3) 練習時間は1日2～3時間、週6～7日を費している。
- 4) 部費負担は、男子では幅があり、女子は3万以下が大勢を占めている。
- 5) 現在、「専門的指導者」「活動資金増」を希望し、職業科女子は、特に「家族の理解」を求めている。
- 6) 大会参加は、高体連主催行事以外の大会へ1～4回が多く、「高体連の行事のみ」が約25%もいる。
- 7) 高体連に対しては「大会数の増」「技術講習会の増」を希望しているが、現状肯定者も約25%いることがわかった。

## 謝 辞

本研究の調査にあたり、ご協力いただいた各高等学校の関係者に深く感謝の意を表します。

注

- 1) 琉球新報, 1981年3月9日, 日刊, 9面。
- 2) 沖縄タイムス, 1983年6月8日, 日刊, 5面, 社説。
- 3) 沖縄県教育庁企画室, 「昭和54年度, 第23回学校基本調査報告書」P39, 1980。
- 4) 沖縄県教育庁企画室, 「昭和55年度, 第24回学校基本調査報告書」P39, 1981。

引用・参考文献

- 1) 外間政太郎・宮城勇・池田隆二・下田次雄・山崎正利・小林篤「沖縄県民のスポーツ意識の構造」日本体育学会第23回大会号, 78, 1972。
- 2) 外間政太郎・浜元盛正「沖縄県高校生のスポーツ調査」琉球大学教育学部紀要, 25-2:97-104, 1981。
- 3) 石崎忠利・根本勇・石川栄寿「男子高校生の心拍数連続測定—全日制生徒と夜間定時制生徒—」体育の科学, 27-4:271-277, 1977。
- 4) 川村仁視・原田碩三・神代古典・長谷川寛一・小原史朗, 現代人の体育, 杏林書院, 1978, pp. 129-30。
- 5) 北村 仁「高校における運動部の衰退と変質」体育の科学, 23-3:151-54, 1973。
- 6) 北沢勝昭「昭和55年度高体連会報」長野県高等学校体育連盟, 9:Pp142-69。
- 7) 桑野 豊, 「スポーツと教育」竹之下休蔵・磯村英一(著), スポーツの社会学, スポーツ科学講座・10, 大修館書店, 1965, pp79-119。
- 8) 松浦義行「日本人の体力・運動能力の現状(後)—昭和56年度体力・運動能力調査の考察—」指導者のためのスポーツジャーナル, 56:26, 1983。
- 9) 文部省, 日本スポーツの現状, 教育図書株式会社, 1964, P63。
- 10) 沖縄県高等学校教職員組合「高校生の意識・生活実態—生徒のアンケートより—」高校教育白書, 4:7-16, 1982。
- 11) 武笠康雄「部活動の停滞と必修クラブの功罪」体育科教育, 23-12:17, 1975。
- 12) 玉田良雄「国民の健康・体力に対する意識と運動・スポーツ実施状況等」指導者のためのスポーツジャーナル, 59:4, 1983。
- 13) 竹之下休蔵「国体選手の社会的背景」体育の科学, 14-6:347-350, 1964。
- 14) 山地啓司, 運動処方のための心拍数の科学, 大修館書店, 1981, P136。